

良城小学校は大昔の団地の上に建っている！ ～先生方もどうぞ～

本日と明日、6年生を対象に、社会科の授業を行います。



私は30年近く前、30歳過ぎの頃、山口市教委の今の文化財保護課に派遣され、文化財の保護や発掘調査の仕事を行っていました。その時に、吉敷の遺跡の発掘や朝田墳墓群の遺跡公園整備事業も担っていました。その経験を生かして、市や県から土器などの発掘資料を借りてきて、実物を見ながら吉敷地域の歴史を考える授業を行います。

明日の2, 3校時にも行うので、吉敷だからこその歴史の話と一緒に聞いてみませんか。

吉敷地域は、山と川、そして平地（扇状地）に恵まれ、縄文時代から人々の居住地となっており、地下には多くの遺跡が埋まっています。特に県庁バイパスを建設したときに、大規模な発掘調査が行われ、貴重な住居跡や土器などの出土品が発見されています。新県庁やバイパス建設以前は、住んでいる人も少なく、田んぼばかり目立つ「田舎」の地域でしたが、江戸時代には吉敷毛利家の居住地であり、さらには太古には多くの人が住む「大団地」だった地域です。

本校の建つ佐畑丘陵も弥生、中世にかけての住居遺跡である「若宮滝河内遺跡」に指定されています。

学校周辺の地域では何度となく発掘調査が行われており、平成15年には今の新グ

ラウンドを拡張する際に発掘調査が行われています。

運動場の下からは、弥生時代の終わり頃から古墳時代の最初の頃の竪穴住居の跡と、その後の奈良平安時代から室町時代にかけての建物跡（柱の跡）が見つかっています。また、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、青磁などの土器もたくさん見つかっています。

授業では、この若宮滝河内遺跡のものだけでなく、同じく吉敷地域内の弥生から中世にかけての大遺跡である上東遺跡、下東遺跡、本校裏門先にある天神山古墳から発見された遺物なども展示しています。

中でも、下のような形の珍しい土器も展示しています。みなさん、この土器が何のための土器なのか想像つきますか。特に、左の土器はまさに山口だからこそのご当地土器です。答えは授業でどうぞ。



また、縄文時代と弥生時代の矢じりの形の変化と時代情勢、土器の変化と国際情勢、令和天皇に繋がる話なども、発掘された土器の話とつなげて話す予定です。

歴史を、事実だけでなく、発掘出土品から見た人々の生活の様子とつなげる授業です。本日2コマ行いましたが、この6年生は、ここまでの授業での歴史の重要ポイントをしっかりと把握しており、授業も子ども達の発言でより深まりました。

来年以降、良城だからこその歴史を織り込んだ授業を進めるためにも、地元教材研究の一環として、見られるといいと思いますよ。お時間のある方は是非どうぞ。